



プラハ

月曜掲載



ヨーロッパのほぼ真ん中に位置するチェコの首都・プラハは、人口130万人。市の中心部が歴史地区として世界遺産に登録されており、「黄金のプラハ」や「建築の博物館」とも称される大変美しい街です。

プラハに暮らして約1年半がたちました。住んでみて感じることは私なりの「チェコ人らしさ」です。彼らは自分たちの宝物や大切にしているもの（物理的にも精神的にも）をむやみやたらと増やそうとしたり、見せびらかしたりすることをしません。

徳田 佳那子さん

新潟市中央区出身

チェコ語通じ心開く人々

一見すると控え目なようですが、決してそういうわけではありません。自分の中に確固たる誇りや信念を持ち、翻弄された歴史や共産主義体制を経験していることも、そういった価値観を得た要因



の一つなのでしょう。

一方で、本当に知りたい、関わりたいと思っている相手には、彼らが心を開いてくれる瞬間があります。それは例えば言語です。

公用語はチェコ語ですが、街中では英語もかなり通じます。しかし、あえてこちらが通じないチェコ語で何とかコミュニケーションをとろうとすると、相手の表情や反応はまるで変わってきます。

8月のパリ五輪の陸上女子やり投げで金メダルに輝いた北口榛花選手。彼女がチェコを拠点に練習をしていることは有名ですが、チェコの現地メディアでも活躍が大きく取り上げられました。

彼女がチェコの人々からも愛されているのは、彼女のチェコ語を介してのコミュニケーション力も大きく関わっているのだと思います。

モルダウ川に架かる美しいカレル橋と奥にそびえる荘厳なプラハ城

プラハの街を歩けば、おそらく

誰もがその美しさに感嘆するでしょう。しかし、その外面的な美しさに魅了されるだけでなく、歴史や文化を知って、街の至る所に刻まれた歴史の跡やそこに暮らす人々の思いに直接、目や心向けることで、さらに深い人間関係を築くことができます。

そしてそれは、さまざまなものがデジタル化、機械化していく現代のあらゆる人やものとの関わりにおいて、より一層大切にしていきたい心の持ち方であると感じています。

(徳田さんは1983年生まれ。新潟市中央区出身で、プラハ日本人学校に勤務しています)

海外で暮らす本県関係者が現地の様子を紹介します。ウエブサイト新潟日報デジタルプラスにも掲載。執筆希望も受け付けています。

